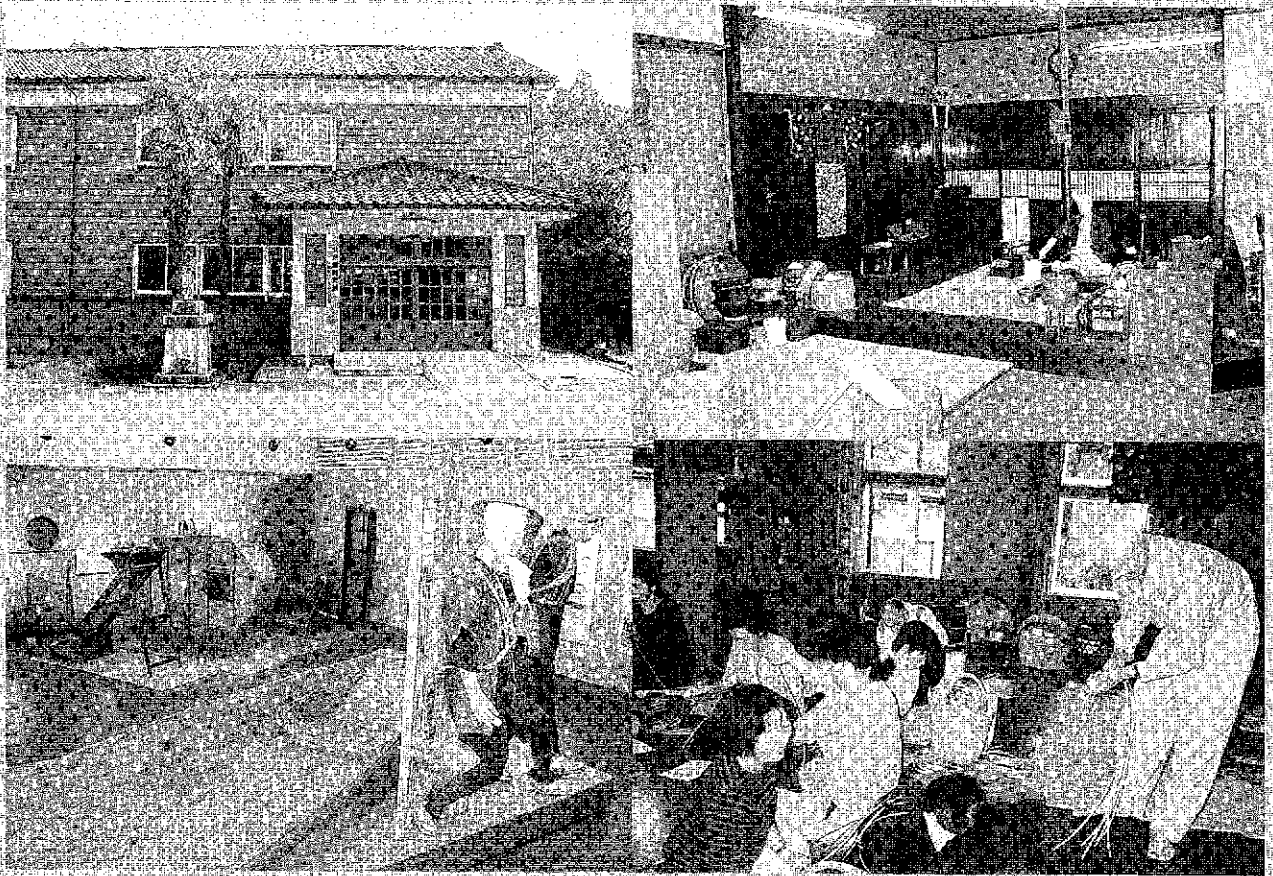


新潟県

公民館月報 9

平成13年9月号 通巻第583号



表紙 体験型民俗資料展示室
(弥彦村公民館)

特集 第52回新潟県公民館大会

視点 境界線?

ひろば 夏休み

サークル交流 柳墨友の会 (柏崎公民館)

とうけい倶楽部 (上川村公民館)

素顔拝見 中谷清一さん (糸魚川市)

土屋寿晴さん (新穂村)

第41回社会教育研究全国集会 本県で初開催

「社会教育の力で、地球と地域が結ぶ」

時代を切り拓こう

21世紀は『学習』と『自治』の力で、をテーマに

01、8、25(土)～27(月)の3日間

聖籠町民会館・聖籠中学校で

去る8月25日(土)～27日(月)の3日間、にわたり果樹王国の町聖籠町民会館・聖籠町立聖籠中学校を会場に、第41回社会教育研究全国集会在開催された。本県

では初めての大会開催で、県内外より、八〇〇余名の参加を得て、盛会裡に終了した。

今回は、21世紀の初め「越佐集会2001」と銘打ち、地球

レベルの深刻な問題の解決にもつながる「地域の力」を見直すことで、社会教育が育んできた市民の学びと協同が地域にどのような新

しい公共性をつくり出そうとしているか、という趣旨を設定している。

これを受けて大会初日は、第1全体会、六つの課題別集会以、1「なぜ社会教育は教育委員会ではなくてはならないか」、2

「学校を核とした新しい地域づくり」新潟県の事例から、3「子どもの権利条約から子どもの権利条約へ」、4「農業と地場産業を支える学び」、5「町の未来は住民が決める」、6「公民館、博物館、図書館」とNPOはどう

課題別集会

う地域と関わる。かと、現代の緊急の課題を採り上げ、協議を深めていた。

第2日目は、大会のメインであり、第1から第20にいたる分科会を設定し、参加者はそれぞれ希望分科会に加わり、終日熱心に討議を深めた。

平成13年度 新潟県公民館振興市町村長連盟 総会が開催される

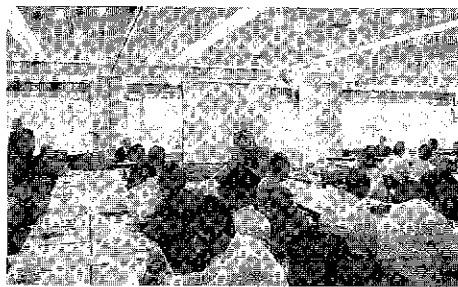
新会長に関広一・小千谷市長

新副会長に山田紀之・糸魚川市長

小野佳一・青海町長は副会長再任

平13・8・28(火) 新潟市役所講堂で

平成13年度新潟県公民館振興市町村長連盟の総会が、去る8月28日(火)、新潟市役所講堂で開催さ



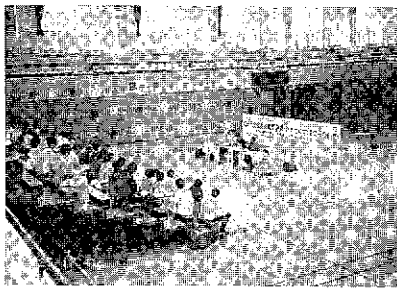
れ、来賓には新潟県教育次長永井成一様、そして本会今井昭友会長を迎えて開会した。議事は、平成12年度会務報告及び歳入歳出決算について承認。役員改選では、新会長に関広一(小千谷市長)、新副会長には山田紀之(糸魚川市長)、小野副会長は再任、理事の大半と監事の全てが再任された。続いて平成13年度重点目標並びに事業計画と歳入歳出予算案が提案され、原案どおり可決承認された。

今年度は、参議院選等諸般の事情により約一カ月半遅れの開催となった。また、重点目標には、家庭教育の支援、IT関連推進環境整備等の文言を挿入、一部修正提案した。

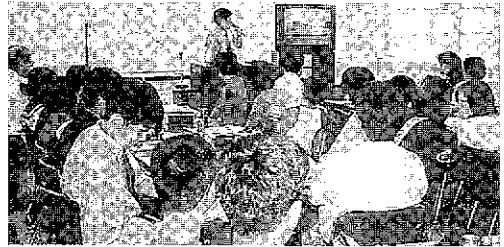
なお、第11「くらしの学びと協同による地域づくり」第12「地方分権と生涯学習」分科会等をはじめ、県内公民館活動の実践事例が発表・紹介されている。大会第3日目は、第2全体会が行われ、課題別集会、分科会等での研究協議の総括がなされ無事終了した。



シンポジウム



平成13年度 北方領土返還要求運動 新潟県民会議開催



青年・婦人フォーラムより

平成13年度北方領土返還要求運動新潟県民会議の総会・県民大会が、去る7月6日(金)新潟市白山会館で開催された。

議事は、平成12年度事業報告並びに決算、次いで平成13年度事業計画案並びに予算案、そして最後に役員改選について提案され、原案どおり可決承認された。

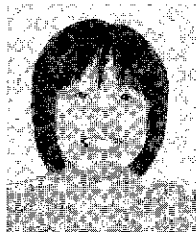
今年度も構成団体への案内文書の遅れや、一般広報紙等へのPR不足等により参加者数が極めて少なく、盛り上がりを欠いていた。また、前席の数人の方がチューイングガムを噛みながら視聴する、というマナーの悪さも目立った。

記念講演では「北方領土返還運動の新たな課題」と題して、拓殖大学海外事情研究所教授佐瀬昌盛様が、二島優先返還より四島一括返還の方が、対口外交上一貫性を持たせる面も譲れない一線である、と力を込めて話されていたのが印象的だった。

県民会議会員活動報告では、①第3回北方四島訪問事業、②青年・婦人フォーラムについてそれぞれの参加者より報告があった。

視 点

いよいよ9月、月末には私の大好きな鳥、オオヒシクイ(雁類で一番大きな冬の渡り鳥)が、日本一の越冬地、わが豊栄市の福島潟にやってきます。寒い冬はオオヒシクイの追っかけ(調査)



境界線？

に明け暮れ、その他の季節も元気な市民と楽しく地域に関わる活動をやっていく私です。4月から現在の職務に就き、いわゆる行政の学習機会、情報の提供側と市民の学習する

としても、職員の一として、生涯学習社会の真つただ中に泳ぎだしているのです。幸い、公務としても各分野で活躍されている方との出会いや各種の研修、情報、時には

れた社会教育研究全国集会「越佐集会」分科会に胸ワクワクで参加し、また新たな姿、顔、声、そして元気をいただいてきました。そして今、市民が主人公の「豊栄市第四次総合計画基本理念のもと、生涯学習推進市民

阿部 美恵子

側との境界線が常に頭の隅にあります。

資格も経験もない私ですが、「行政、しっかりと

の市民から背中を押されながら、市民の一人

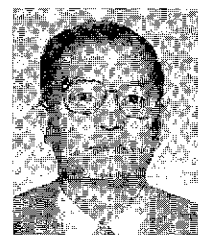
貴重な失敗談などを得ることができ、この仕事の奥の深さとやりがいを見つけ始めています。

8月最後の日曜日、お隣、聖籠町で開催さ

生涯学習係長)

夏 休 み

朝日村公民館運営審議会委員 大滝 優四郎



7月中旬旬、連日の猛暑にうんざりしながらも、蟬の

「へえ、うたいたいもんだ」と言ってもらえそうだが、事実はずっと違っていた。「Aは算数が得意だから算数を頼むよ」「俺、国語をやる」といった具合に、それが得意分野を請負う、後は丸写しすればよかった。だいたいの3〜4日で80%は終了したものだ。5日目からは毎日のように川へ出かけ、遊泳や鮎・カジカ等を追いかけていた。おかげさまで、夏休みが終わる頃までには背中の皮が2〜3回剥けるのが通例だった。しかし、宿題の20%(自由研究や絵日記等)は手付かずなので、その対応にはギリギリまであたふたした。前述の宿題処理が良いわけではないが、夏休みは友人との連帯感に溢れ、それなりに充実した日々であったように記憶している。

ひ ろ ば

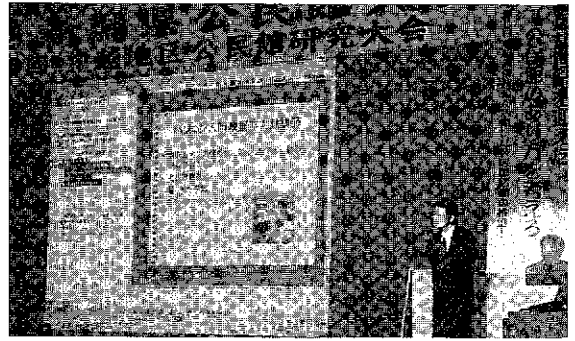
我が「子ども時代」を振り返れば、次男に「毎日コツコツ計画して勉強しろ」などととても言えない。もはや時効になったと思うので、我々の子どもの頃の夏休みを明かすことにしよう。まず、夏休みに入ってから真っ先にやった事は宿題であった。しかも5〜6人の友達が一カ所に集まっての共同勉強である。

今の子どもたちに、どのような事でもよいが「充実した夏休み」と感じられるような体験をしてもらいたいものである。私は時々、子どもに自分の小中学生の頃のことを話をする。何かに夢中になってくれればと思いつつ。

『した公民館活動の推進』

資料より

実践事例発表の概要報告その1



大沢野町広瀬主査の発表

▶おわりに…こうみんかんでできること

ホームページを運営してきたの成果など

- ・「加茂市の情報を発信するホームページをつくり、世界に発信する！」という具体的な目的をもって講習会をもつことができた。ただのパソコン講習でなく、目的意識をもって受講生がパソコンに向かった。また、地域教材(地域で共有できる情報型教材)を講習会で作成するという可能性も見えた。
- ・利用者との意見交換や、やりとりの手段が増えた。(聾啞者の方、新成人の方など)
- ・様々なリンクの依頼がきたことにより、今後の可能性が見えた。

→地域の人材や、団体との交流のきっかけがまた一つ増えた!

これからできそうなコト

- ・掲示板などで情報交換、人と人の交流の場にする。
- ・ホームページやパソコンを通して、新しいつながりをつくる。
(サークルの中の宣伝係とか、パソコンお助けボランティアなど)

まだホームページに手をつけていない公民館の方へ

とにかく、つくってみましょう。講習会もあります。地域で詳しい方もたくさんいます。人材活用は、公民館の十八番だと思いますので。

つくってみて失敗したら、取り下げるのも瞬時。情報を世界に発信するのも、瞬時。そういうアイテムです。興味のある職員が気軽に取り掛かるといいと思います。

実践事例発表2

水と緑に囲まれた共感都市 大沢野タウンカレッジ

富山県大沢野町町民課主査 広瀬 圭一

●パソコン入門教室非常勤講師

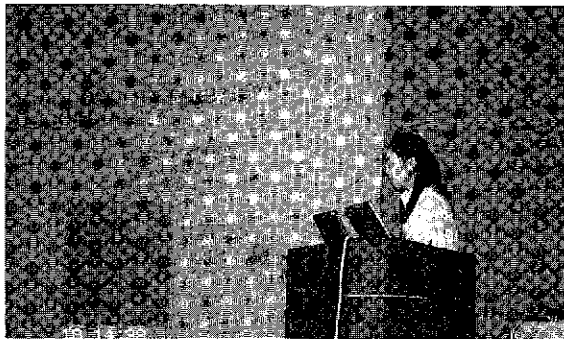
「電脳村」で全国的に有名になった富山県山田村の隣の隣の町、大沢野町に、私は町民課職員として勤めています。富山県すべての市町村が、山田村のように「情報化によるまちおこし」が行われているわけでもありません。大沢野町での取組み事例をご紹介します。

私は年に数回、土・日曜日と、大沢野町生涯学習センター「情報見聞館」で「パソコン入門教室」の講師をやっております。そこでは、インターネットや電子メール、EXCELやWORDの初歩を体験していただいております。

教室の初めにいつも私はこう言っています。「パソコンは大変難しいものです。そんな簡単に使えるものではありません。でも、一緒にやってみましょう」。初心者の方のダブルクリックの難しさを講座の中で痛感しております。そんなパソコン入門講座では、80歳以上の高齢者も参加していただいたこともあります。その方はお孫さんにパソコンを習っており、囲碁のソフトをインストールして楽しんでいるそうです。「囲碁のソフトは弱くてだめだちゃ」。そう言い切る方に、インターネットで囲碁のサイトをご紹介しますと今度は、「今、対局しているところちゃ見れんがけ?」。私は、「これは、テレビと違うんです」。そんなやりとりをしながら、その方は目を輝かせてそのホームページを見ておられました。

●町や町民が自ら情報発信、交流を!

大沢野町「情報見聞館」は平成2年、自治省の地域総合整備事業まちづくり事業の指定を受けて建設されたものです。鉄筋コンクリート4階建て、総事業費は約12億円、大沢野町中央公民館の機能と図書館や茶室、児童館、教育センターを持つ複合施設です。「情報見聞館」のネーミングにあるように、情報を見て聞いて体験する施設としてパソコン教室も備えられています。平成2年よりMS-DOSパソコンを16台配置し、パソコン教室を行ってきました。コンピューター機器を活用した各種事業展開は「情報(機器)への興味を持つきっかけづくり」、「情報(機器)を自ら体験する」、「学んだり調べたりする際に情報機器を活用し役立てる」など、町民の情報に関する生涯学習への取組みをバックアップしてきたところです。



加茂市長谷川主事の発表

特集

『新しい情報通信技術を活用』 第52回新潟県公民館大会

実践事例発表1

加茂市ホームページ紹介～こうみんかんでできること～

加茂市公民館主事 長谷川 優子

▶はじめに

- ・ホームページを作ったの感想

たのしいなあ!

公民館とすごく相性のいいアイテムだなあ

- ・作るまでの経緯

市情報政策係の呼びかけで、県高度情報化推進協議会(現在IT&ITS推進協議会)の市町村向け研修会に参加。平成11年8月から、市ホームページ内に公民館ホームページを立ち上げました。当初は、パソコンからファイル転送についても、職員の私物に頼りきりでしたが、ページキープする2年の間に市役所内サーバ、各課にパソコンという環境が整いました。

▶加茂市公民館ホームページの作り方

「身近で楽しい公民館」のイメージ。とにかく知ってもらいたい!

- ・事業報告 デジタルな事業報告として。または、学校などの学習プログラムの参考として。
- ・事業案内 お金のかからないフルカラー広告のできる媒体として。
- ・育団連のページ 育団連活動報告、活動を知ってもらいたい!他市町村との交流のきっかけとして。後々は、役員で管理できるように。
- ・管理関係 部屋、体育館の利用申請書を掲載、プリントアウトして利用できるように。(実際の利用あります)
- ・公民館の部屋 公民館で色々なサークルが活動しているように、ホームページでも、様々な会の活動が見られたら、との発想のもとに。
- ・その他 おまけページがいくつかあります。(探してみてください)

▶ホームページから講座(オフライン)への展開

発見!ふるさと加茂パソコン講座について

三南視聴覚ライブラリーとの共催で、地域の人材掘り起こし(後々パソコン指導助手)、地域教材の作成(加茂情報を発信する、myページ作成)を目的に実施。

受講生は、ただパソコンに興味のある高齢者というのがメインでしたが、目的意識をもってパソコンに向かうため、進度も速かったようでした。ホームページづくりは、パソコンの楽しさを実感できる様々な要素が必要なので、技術的に高いものを求めたければ研鑽しがいがある教材。今回は、初心者対象だったので、画像処理などはこちらで行い、できあがった素材を組み立ててページをつくる作業がメインでした。

でも、どうにか出来上がったページをインターネットを通して見た皆さんの反応はとてもよかったです。ただ、この受講生をその後につなげられなかったのが、その反省のもとに普段公民館に出入りしている方対象のホームページ研修会を考えました。

公民館サークルの部室構想!

ただのリンクページなのですが、こちらからリンクを仕掛けるページをつくっていただく講座を企画します。定期利用団体にアンケートをとり、サークル内でパソコンをお持ちでワープロ入力ができるレベルの方を対象にしたサークルのホームページ作成講習会の参加希望をお聞きしたところ、20の団体から回答があり、うち14の団体がサークルのホームページをつくることに前向きなお答えでした。

個人のプロバイダ契約でも今や10M、20Mのホームページスペースがついていたりします。この容量を使わない手はないので、ぜひご自分のサークルのページを!と言うと、大抵の方は、「そうだね!」と言って下さいました。

講座自体はまだ実施しておりませんが、一部気のある方を2、3人お願いして、プレ講習会を3月に実施、部室の扉が3つリンクゲートとしてオープンしました。

4面よりつづく

実践事例発表の概要報告 その2

●大沢野町での情報化の取組み

平成9年度には、文部省の学習活動支援設備事業補助金を受け、Windowsパソコンを導入し、『情報見聞館』の新たなステップを踏み出すこととなりました。具体的には、「生涯学習センターに来所し、情報機器になれ親しむステージ」から、「生涯学習センターを介してさまざまな情報を入力し役立てるステージ、さらに、町や町民が自ら情報発信、交流するステージ」を展開できるようにするものです。

「大沢野町生涯学習支援システム」として、インターネットサーバを導入、パソコン教室用デスクトップ端末も13台更新し、24時間インターネットを通じて、図書館蔵書情報の検索や生涯学習情報やイベント情報の提供などを行ってきました。私は今から4年前、企画情報課においてそのシステム導入のお手伝いをさせていただいたのです。

大沢野町企画情報課では、平成7年度より町のホームページを立ち上げ、8年度には財団法人マルチメディアコンテンツ振興協会が実施主体の「メロウ・ハイパー風土記(高齢者の文化活動支援)」のモデル指定を受け、「おらっちゃんのハイパー風土記」という郷土の歴史や風土を紹介するホームページを制作しました。これは、高齢者が語り部となり、それを聞いた高校生のボランティアがホームページ作りに参加するというものでした。

大沢野町は、人口約2万3千人、県都富山市の南部に位置し、南は岐阜県と接した町です。旧飛騨街道(岐阜県飛騨地方と富山県を結ぶ)沿いに町並みが発達し、町の中心を北陸と東海地方を結ぶ大動脈である国道41号線が縦貫しています。そんな大沢野町を紹介したのが「ハイパー風土記」でした。

●IT講習教室を開設

「町のホームページは、町民の方々に見てもらいたい。自分の住んでいる町をホームページを通じて再発見していただければ」。そんな思いから、企画情報課より他の課に変わっても「パソコン入門教室」の講師を行っている私です。

「パソコン入門講座」は、大沢野町生涯学習講座タウンカレッジのひとつとしてあります。パソコンに限らず、郷土散策や語学などさまざまな講座を町民の方々に学んでいただけるようメニュー化して、案内、受講を受け付けています。

全国的なIT講習会が始まる前、平成10年度より、パソコン入門のほか、WORD入門、中高年のWORD入門、EXCEL入門、インターネット入門、パソコン年賀状教室などを行っております。毎回好評で12名の定員をオーバー、空きを待っていただいている状況です。パソコン入門を終えた方が次のステップへと進めるよう講座を順序良く受講できたら良いのですが各講座の定員がいっぱいで、そももいかない状況です。また専門的なコースでは、業者委託の講師代も2時間2万円から3万円と高く、回数も増やせません。私のような自前講師や、町内のSOHO講師に低料金で頼んで行っているのが現状でした。また、講座に参加いただいた方には、次の講座を開設の参考にするためのアンケートをお願いしています。アンケートの中ではさまざまな意見が出されてきました。

「もう少し講座回数を増やしてほしい」。「講座内容を伝えレベルにあった講座にすればよかったと思われる」。限られた予算の中で、要望に答えられるよう内容検討等していかねばなりません。「思ったより難しかったです。でも少し自信ができました」。そんなアンケートの言葉に代表されるように、「パソコンは難しいものです。でも、皆さんこの講座に参加して使ってみることができたのではないですか。自信をもってください」。そう皆さんに各種講座を通じてお伝えできたらと思っていました。

平成12年度から全国的なIT講習が始まり、担当の生涯学習課では、文部科学省の学習活動支援事業(情報通信技術関連特別対策情報通信設備整備)を活用し、町内の6地区公民館すべてに総数63台のパソコンを配備しました。『情報見聞館』と繋ぐことにより、インターネットの世界をより身近な公民館から体験できることとなったのです。平成13年度には、44講座、延べ500名弱のIT講習会が開催されます。富山県情報通信技術講習推進事業補助金により講習会を行う専門業者の講師も確保され、私の出番も少なくなりました。

●IT講習の次の課題は?

IT講習は、パソコンという道具の使い方をお教える講座です。IT講習を終えた方たちが取り組む次の課題はなんでしょうか。

その答えが、大沢野タウンカレッジの自主サークルにあるような気がします。「川柳」「短歌」「古文書」「手話」「エクササイズ」「アウトドア」「ふるさと発見」など、町主催のタウンカレッジを卒業された方たちが自主的に講師を呼び、楽しみながらサークル活動を継続しておられます。

その活動内容は、生涯学習センター『情報見聞館』のロビーに大判紙で張り出し、発表され、そして一緒に参加する仲間を求めています。今度はそれをインターネットを使ってやってみたいと思います。『情報見聞館』の「町民が自ら情報発信し、交流するステージ」への展開を実現するのです。

この土地に住んでいる人それぞれの知恵や経験、さまざまな活動をホームページに載せ、発表していく。「おらっちゃんのハイパー風土記」がそうだったように、ITという道具を使って、大沢野町—自分たちの住んでいる町や人々が情報発信し、再発見していくことが求められていることでしょう。

私は、そんな大沢野タウンカレッジ事業展開の一助になればと思っています。

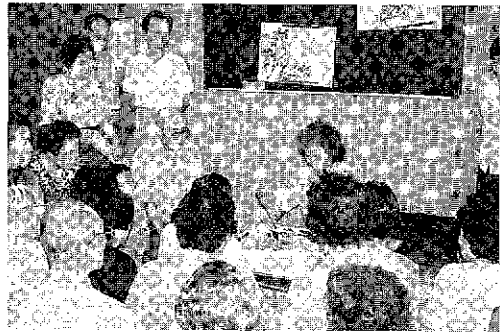
サークル交流

心豊かに学ぶ

水墨の楽しさ 柳墨友の会

私達のグループは、平成十三年四月より「柳墨友の会」という名で自主・自立的活動をやっています。名前でお分かりと思いますが、水墨画をこよなく愛

好し、自ら学びたい者が自由に集い、共に喜びと楽しみの中で水墨を学び合っています。心に豊かさゆとりを求め、お互いに親睦を深めることを目的に水墨画の学習をしているグループです。そ



の前身は、公民館サークル活動として、柏崎公民館の全面的バックアップによって長年にわたって行なわれていた「寿大学」自治会組織の水墨コースであり、この発展的改革を図ったものが「柳墨友の会」です。現在、会員数は四十名を数えております。

講師先生には、日本画府理事の柳重栄先生をお迎えし、一人一人の作品に細かな加筆指導を受けております。月二回の学習を皆さんが楽しみにしており、手本や自作の指導を進んで受けている姿を見て、水墨画学習をサークルとして継続させ良かつたと思っています。

(柏崎市 柳墨友の会
横関 松夫 記)

世界にたった

一つの宝物

とうげい倶楽部

毎週水曜、夜7時から、地域の若い女性を中心に「世界にたった一つ」の作品づくりを楽しんでいます。作るものは、小鉢や大皿、ピアカップ等々。一作品を完成させるのに、3、4工程の作業を行い、作品が完成



した時の喜びは何とも言えないとか。作品は部屋のインテリアになったり、実用品になったりと大活躍。手びねりで苦労して作った大皿に、取れたての枝豆をゆでて盛り、趣のあるピアカップに冷たいビールを注いで、暑い夏の夕食に飲んだら、最高の気分のことと思います。

この趣味と実益を兼ねた教室は、地元「工房 竜」の樋口さんが指導にあたっていて、様々な工程でのアドバイスをしてくれます。

今週も、世界にたった一つしかない自分の宝物の制作に汗を流すみなさんです。

(上川村公民館
真田 政弘 記)

糸魚川市大和川公民館

主事 中谷清一 さん

昭和62年からふるさとを離れ、東京本社技術部に8年、海外出張十数回。平成7年地元へ戻り、同9年定年退職。留守中皆さんに迷惑をかけたからと区長や民生委員を引き受けた人物でもある。平成11年から当公民館主事となる。(職員は臨時職)

美男子とは言い難い(失礼)が気さくで至って優しい。特に子どもが大好きで記憶力も



良くすぐに仲良しになる。技術開発関係の仕事柄か几帳面で、毎日詳細に日記を書いており、記憶が定かでない時は助かる。仕事は早く、行動派である。古風な一面も持っている。今、仲間と近くの川へむかしの生きものの再現に活動中である。彼の一日は集会所の拭き掃除から始まる。利用者に気持ちよく使って欲しいから、という。地域の人望もあり訪れる層も広くなった。「お早ようございませう」大きな声で今日も始まった。(大和川公民館館長 鴨井 藤雄 記)

素顔 拝見



誠心誠意で人の話を聴く姿には、常々感心させられている。時に不満を持ってきた人も彼と語り合うなかでそれを解消させ、一件落着となっていく様は見事というほかはない。

佐渡地公連事務局も担当し多忙であるが、家庭サービスにも努めるよう折々に説諭している。アルコールには強く、日本酒を愛する頼もしい男である。

(新穂村公民館館長 山田 朗 記)

新穂村公民館 社会教育主事 土屋寿晴 さん
本年度行政組織の変更と、それに伴う人事異動が大幅に行われた教育委員会事務局で、生涯学習・公民館担当の大黒柱として活躍しているのが、土屋社会教育主事である。
彼は収入役室勤務の後、教育委員会事務局に転じて三年目である。昨年までは社会体育を担当するとともに、全国の耳目を集めた「トキ」関係の担当者として適確に仕事をすすめ、大きな評価を得てきた。
人柄は温厚篤実。わけても、

『月刊公民館』8月号資料紹介より

新潟県公民館連合会『新潟県公民館五十年誌』(13・3、A4判、311頁)
新潟県公連創立50周年記念事業の一環として刊行された記念誌。
平成11年の11月から企画が進められたが「時あたかも県・市町村財政厳しき折り、記念事業の縮小・見直しを迫られた。しかし、この記念誌だけは何としても刊行したいという今井昭友・県公連会長の強い意向を受け、独立採算制を原則にしてスタートした。幸い各市町村公民館のご支援・ご協力により購入予約数も

採算ベースを確保することができ、こうしてここに刊行することができた(あとがき要旨)と厳しかった内情が記されている。
新潟県公連は、「二十年誌(昭和21年度・47年度)」、「四十年誌(昭和48年度・平成2年度)」を既刊。今回は「四十年誌を基底にして企画・編集。50周年を迎えた平成12年の現時点で、各市町村の現状を知る」ことを基本原則としてまとめ、そこに50周年記念式典の内容等を付加した(あとがき要旨)

記念式典の部には、廣瀬隆人・宇都宮大学助教授による記念講演「公民館の未来をさぐる」が、加筆訂正を加えて収められ、「公民館が戦後50年の歴史のなかで住民の自治能力の形成に一定の役割を果たしてきたことは再認識しておく必要がある。自治体行政全体を見渡しながら、地域社会の必需品としての『効果』を自治体の理事者、財政担当者、そして住民に説明できる能力が公民館職員に求められている」ことや「地方分権、規制緩和の流れと市民参画・協働の流れのなかで公民館の原点に立ち戻り、参画・協働による地域づくりのために何ができるのかを総合的に検討していく必要がある。地方分権は、むしろ公民館の活性化によって実現するチャンスとも考えられることができる」などと示唆されている。



恵贈資料紹介

『テトラポット』第17号

下越地区社会教育主事等会

実践レポートの投稿や随想の発表等をおおして、仲間たちと共に育った「テトラポット」。
テトラポットの命名の由来を表紙裏の囲みで読み取る時、なぜかほっと一安堵いたします。
この17号にも、いくつかのすばらしい実践記録が目につきま

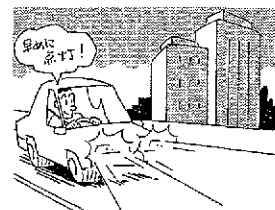


す。とくに「イベントによるまちづくり」黒埼誕生100年記念事業から新潟市合併に向けて「ふるさと潟東21歩舞台」等、内容のユニークさと共に大変興味深く読ませていただきました。
今年度から、事務局が教育事務所から独立してこの活動を継続する訳ですが、事務処理、機関誌の企画、編集発行等大変でしようが、ご健闘を心より祈念いたします。

平成13年 秋の全国交通安全運動

新潟県実施要綱 9/21(金)~9/30(日)

スローガン 夕暮れは 人も車も かくれんぼ



新潟県交通安全対策連絡協議会

20頁にわたる「新潟県公民館略年表」には、昭和21年7月から平成12年までの主な出来事と公民館のあゆみが簡明に綴られ、さらに、「四十年記念誌」以降の十年については「その後の十年」として、重点事項が列記されている。

市町村の現状の部は省略。

表紙解説

体験型民俗資料展示室

今年4月にオープンした、公民館籠支館内の体験型民俗資料展示室。総合学習での利用が期待されています。

(弥彦村公民館)

発行所 新潟県公民館連合会 〒951-8053
新潟市川端町2-9・県林業会館内
TEL・FAX (025)224-6073
発行人 会長 今井昭友 夫
編集人 事務局長 鈴木友夫
印刷 第一印刷所 〒950-8724
新潟市利合町2-4-18
TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776
【定価1部150円 年共1,800円】

あとかき
◇酷暑と称するにふさわしいこの夏の暑さでした。自然体験活動事業の実施等で、大変だったのでは?と推察いたします。
◇いよいよ秋口に入ります。公振連総会終了後、来年の関プロ大会の対応です。(鈴木記)